



エフエソ書を讀む

釈義と説教

石田学 著

(いしだ・まなぶ氏は日本ナザレン教団小山教会牧師)

◆四六判・並製・248頁・本体2000円

7月20日発売

多様性を多様性として認めつつ一致を求めた初代教会

「あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、

聖なる民に属する者、神の家族です。」(エフエソ書2章19節)

初代教会内には階級文化習慣等を異にする様々な人々が集った。それらの多様性を受け入れつつ、キリストにある一致を求め続けた信仰の先達たち。21世紀に生きる私たちにもその声は生き生きと響く。また本書は、著者が牧師として毎週の説教を作る作業で行う釈義と、その結果としての説教を並行して示す。エフエソ書の学びのために欠かせない一冊。

【本書収録の説教より】

キリストがわたしたちの平和
悪い時代を生きる秘訣

キリストがそうなさったように
信仰に基づく信念が問われる
ただ神だけがわたしたちの主
主の偉大な力を身にまとい
メメント・モリ(死を覚えよ)

関連の既刊書

佐藤司郎 われは教会を信ず

エフエソの信徒への手紙に学ぶ

◆新書判・162頁・本体1400円

辻学 偽名書簡の謎を解く

パウロなき後のキリスト教

◆四六判・233頁・本体2200円

F・ハーン
勝田英嗣訳

新約聖書の伝道理解

◆A5判・240頁・本体3800円

カール・バルト

『教会教義学』全36冊オンデマンド化完了

井上良雄訳

和解論Ⅱ／4

僕としての主イエス・キリスト〈下〉

◆A5判・上製（PUR製本）・448頁・本体9400円

井上良雄訳

和解論Ⅳ

断片

◆A5判・上製（PUR製本）・378頁・本体9000円

パウル・テイリツヒ著／土居真俊訳

組織神学 第三卷

◆A5判・上製（PUR製本）・570頁・本体9500円

*第一巻は通常本の在庫があります。

第二巻はオンデマンド化されています。

●好評の近刊から

カール・バルト著／天野有編訳

教会と国家Ⅲ

東西冷戦の時代 バルト・セレクション6

◆文庫判・並製・587頁・本体1800円

「キリスト者共同体と市民共同体」、「国家秩序の転換の中にあるキリスト教会」など、戦後冷戦期の重要論考11編を精選・新訳。

岩井健作著

聖書の風景

小磯良平の聖書挿絵

◆A5判・上製・160頁・本体2500円

日本を代表する洋画家小磯良平（1988年没）が描き下ろした32枚の挿絵を読み解く。

一色哲著

南島キリスト教史入門

奄美・沖縄・宮古・八重山の近代と

福音主義信仰の交流と越境

◆四六変判・並製・232頁・本体2200円

ジョン・デアア著／志村真訳

剣を収めよ 平和の証人たち (仮題)

福音書に記されたイエスの言葉と振舞いに、それぞれの場で誠実に従い続けたキング牧師、ベリガン神父、ヘンリー・ナウエン、ジョン・バエズ、ティク・ナット・ハン、ソフィー・シヨル、トマス・マートンら平和の証人たちの足跡をたどる。活きた平和の神学。

◆四六判・予価1600円

宮田光雄著

ルターはヒトラーの先駆者だったか

宗教改革とは何だったのか。ルターにおける原点を振り返り、カルヴァン、バルトへと連なる系譜を探るとともに、同時代の美術に表現された信仰のかたちを辿る。またフロム『自由からの逃走』に代表されるルター観を批判的に吟味し、福音主義の本旨を説明する。

◆四六判・予価2750円

栗林輝夫著／西原廉太・大宮有博編

アメリカ現代神学の航海図

複雑かつ活発な運動を絶やさないアメリカ現代神学の鮮やかな見取り図。〔栗林輝夫セレクション〕2。

◆A5判・予価5500円

関口安義著

評伝 矢内原忠雄

新渡戸・内村の薫陶を受け、伝道を志しつつ、経済学者として優れた業績を上げ、軍国日本と対決して野に退き、戦後は東大総長として再建日本の精神的指導に挺身した無教会キリスト者の生涯を、綿密な調査を基に描きあげた1100枚の大作。

◆A5判・予価8000円

●6月に出た本と雑誌

クエーカー入門

ピンク・ダンデライオン著／中野泰治訳

17世紀イングランドで始まり、様々な社会改革に参与し、欧米型市民社会の形成に大きな影響を与えたク



エーカー。その発展と分派の歴史から、「沈黙の礼拝」や「聖化」などの中心的教義、社会との関わりについてまで、第一人者が明晰に分析し解説した定番の入門書。

◆四六判・本体2400円

福音と世界

◆税込635円

7月号 特集 クエア神学とは何か

寄稿者：佐々木裕子、朝香知己、小林昭博、堀江有里、川江友二／村瀬義史、IKAZUGOKE、ブレイディみかこ、國分功一郎、森宣雄、辻学、内田樹、芦名定道、望月麻生、佐藤優

●キリスト教系出版社、書店、取次かなるキリスト教出版販売協会という団体があるのですが、先日、その活動の一端で、出版業界の立場からヘイトスピーチ問題を考える集まりがありました。問題意識を同じくするさまざまな出版人たちによってなる「ヘイトスピーチと排外主義に加担しない出版関係者の会」のメンバーを招き、その活動について学んだあと、自らの働く現場と差別について参加者がワークシヨップで議論を交わすというものです。そのなかで痛感したのは、いまの日本社会でまかり通っている公共性や倫理には、人種的「他者」の存在が想定されていないということでした。つまり、人種差別をそれじたいとして禁止する法が、いまだに確立されていないのです。しかし振り返ってみれば、あまねく差別や分断を超克せよとの求めが、すでに聖書には語られていたはず。近刊予定の『エフエソ書を読む』（石田学著）はそのことをあらためて突きつけます。エフエソ書の読解とそれをもとにした説教からなる同書では、人間が自ら築いたさまざまな隔ての壁を取り払って生きるのがキリスト者である

という理解がたびたび説かれます。神の民のあるべき姿を説くその言葉は、現代にも通用するエフエソ書の慧眼によるものといえるでしょう。しかしそれでは、長らくその役割を負ってきたはずのキリスト者は、なぜいまだに差別の撤廃をなしとげられていないのか。私はそこに、ある種の恥の感覚をおおはずにはいられません。（堀）

●書籍の注文をいただく、担当者が倉庫の棚から書籍を集めます。集品と呼ばれる作業ですが、在庫に美本が少なくいと苦労します。実際、美本だけで受注数をまかなえない場合がかなりあります。発行からある程度年月が経過すると、様々な理由で傷や汚れの付いた本が増えてくるからです。そこで、カバーとオビを掛け替えたり、天地小口の汚れを研磨して綺麗にするなど、改装という作業を行います。在庫から美本を選び分け、足りない場合は改装。一冊の本を出荷するにも意外な手間がかかるわけです。実は編集部も、自分が作った本の在庫がどんな状態にあるのかよく知りません。最近倉庫の苦悩を聞いて、それではよくないと思っ

福音と世界

A5判・80頁・定価635円・送料70円
年間予約購読料（送料共）8460円

2018年
8

特集・国家、天皇制、キリスト教

天皇のてまえと憲法のかなたで——公共性から自然へとおりていくために——白石嘉治
クイアなテニアスボラを生きる——国民国家の終わりを見据えて——上村 静
天皇制とフェミニズム——「明治150年」を考える——鈴木裕子
憲法をめぐる攻防のありか——改憲国民投票と「自衛隊明記」——伊藤朝日太郎
〈内田樹氏インタビュー〉「天皇主義者」宣言について聞く——統治のための擬制と犠牲

◆野に咲く民衆の神学 5……………森 宣雄

◆地のいと低きところにホサナ 8……………プレジデイみかこ

◆福音の地下水脈 10……………KAZUJIGOKE

◆みことば散歩 20……………望月麻生

◆現代神学の冒険 23……………芦名定道

◆聖書とわたし 29……………石井光太

◆新約釈義 第一テモテ書 30……………辻 学

◆佐藤優のことばの履歴書 53……………佐藤 優

◆詩篇の思想と信仰 156 最終回……………月本昭男

【好評連載】

◆個・関係性・人格性 ルターの問題とわれわれ……………松浦 純